

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック 保幼小中連携	保幼小中が一体となり、“つながり”を深める。	教科指導[教育課程]を通じて、保幼・小、小中、小小のつながりを深める。 Plan ・合同授業研で教科や教科外(支援・養護)部会の実施 ・月1回の小中担当者会の実施	H29年度の成果をもとに、各校の交流を深め、それぞれの園・学校で実践にうつしていく。[生活面も含む] ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同授業研の実施 Do (掲示物・カリキュラム・連携カリキュラムなど。)	H29年度・H30年度の成果をもとに、目標実現にむけて、実践等の交流を深める。 ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同授業研の実施 See ・課題を把握し、改善していく。
確かな学力の育成	『主体的・対話的で深い学び』の『主体的・対話的で深い学び』の実現ができるよう改革を進める。次期学習指導要領を見据え、	『主体的・対話的で深い学び』の追求 ・朝の読書 ・学び舎(放課後学習会) ・研究授業・研究協議の実践 ・校内研修 ●growing up planの職員周知 ●今年度のテーマの周知及び実践交流 ・授業改善の取り組み(ビデオ交流など) ・授業交流(年間を通じて) ・授業頑張ろう週間(定期テスト後) ・ユニバーサルデザイン(教室等環境整備の観点から) ・ICT教育の推進 スクリーン教室常設設備	『主体的・対話的で深い学び』の実践 ・朝の読書 ・学び舎(放課後学習会) ・研究授業・研究協議の実践(西陵中ブロック-学びのシンポジウム対象) ・授業改善の取り組み ・授業交流週間(11月) ・授業頑張ろう週間(定期テスト後) ・校内研修(未定) ・ICT教育の推進 スクリーン教室常設設備 [1年]	『主体的・対話的で深い学び』の実現 ・朝の読書 ・学び舎(放課後学習会) ・研究授業・研究協議の実践 ・校内研修 ・授業改善の取り組み ・授業交流週間(11月) ・授業頑張ろう週間(定期テスト後) ・校内研修(未定) ・ICT教育の推進 スクリーンの教室常設設備 [1年]
豊かな人間性を育む	互いの違いを認め合い、集団作りを深める。	人権の観点から ・新制服の導入に伴い、男女共生教育の理解を深める。	人権の観点から ・新制服の導入 ・男女共生教育の取り組みを進める。	人権の観点から ・男女共生教育をはじめ、お互いの違いを認め合い、集団作りを進める。
平和学習				
健康・体力の増進	調和のとれた体力を身につける。	男女とも体力テストにおいて全国平均を上回る項目を1つ増やす。 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。 カリキュラムのバランスを取る。 球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置く。またウォーミングアップ時にボールを使用した運動も適宜取り入れていく。 ・食育や安全・防災教育の推進	男女とも体力テストにおいて全国平均を上回る項目を2つ増やす。 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。 カリキュラムのバランスを取る。 球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置くだけでなく、日頃の筋力トレーニング工夫して体力の向上を目指す。 ・食育や安全・防災教育の推進	男女とも体力テストにおいて全国平均を上回る項目を3つ増やす。 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。 カリキュラムのバランスを取る。 球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置くだけでなく、日頃の筋力トレーニング工夫して体力の向上を目指す。 ・食育や安全・防災教育の推進
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
良好な結果であった。
- ②書くこと
概ね良好な結果であった。
- ③読むこと
概ね良好な結果であった。
- ④言語事項
概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式
概ね良好な結果であった。
- ②短答式
良好な結果であった。
- ③記述式
出題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

最も、正答率の高かった設問は、「話すこと・聞くこと」で、全国平均を上回っていた。
その他の設問でも全国平均を上回っているが、「書くこと」は小さな上回り方であった。
無解答率は低く、頑張ろうとする姿が見られた。

国語B

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった。
- ②書くこと
良好な結果であった。
- ③読むこと
良好な結果であった。
- ④言語事項
大変良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式
概ね良好な結果であった。
- ②短答式
概ね良好な結果であった。
- ③記述式
良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

最も、正答率の高った設問は、「言語事項」で、全国平均を上回っていた。
その他の設問でも全国平均を上回っているが、「話すこと・聞くこと」の選択式問題は小さな上回り方であった。
無解答率は低く、頑張ろうとする姿が見られた。

分析

・国語Aでは大問が9つあり、分野は掲示物・詩・文学的文章・説明的な文章を読み取る問題などさまざままで、頭を切り替え集中して読み進め、正しく判断する力が要求される。今回は行書と楷書の違いについての正答率が全国平均よりも低く、これからは今まで以上に書写への理解を進めていく授業を展開していく必要があると思われる。

・国語Bでは大問が3つあり、文学的文章・スピーチについて・情報の収集など、基本的な知識や技能を目的に応じて使う力が必要になっている。また、すべて最後に記述式の問題があり、考えたことや読み取れたことを自分の言葉で表現する力が必要となる。

・Aでは短答式の問い(漢字の書き)、Bでは記述式の問いで無解答率が上がっている。教科だけでなく、書くことを必要とするさまざまな場面で枠いっぱいを書くよう、指導していきたい。

○●数学●○

数学A

(領域ごと)

- ①数と式
大変良好な結果であった。
- ②図形
大変良好な結果であった。
- ③関数
良好な結果であった。
- ④資料の活用
概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式
大変良好な結果であった。
- ②短答式
大変良好な結果であった。
- ③記述式
出題なし。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

最も正答率が高かった設問は、図形の領域であり、全国に比べてかなり上回っていた。数と式も同様で、この分野はよくできていると考えられる。

その他の設問も全国を上回っており、かなりできていたと考察できる。

数学B

(領域ごと)

- ①数と式
大変良好な結果であった。
- ②図形
良好な結果であった。
- ③関数
良好な結果であった。
- ④資料の活用
概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式
概ね良好な結果であった。
- ②短答式
良好な結果であった。
- ③記述式
良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

最も正答率が高かった設問は、数と式の領域であり、全国に比べてかなり上回っており、この分野はよくできていると考えられる。

その他の設問も全国を上回っているが、資料の活用の部分は、あまり全国との差はなかった。

分析

全体的にA問題B問題ともによくできていたと思われる結果だった。

特に数と式や図形といった計算を中心とする問題は比較的よくできると考察ができる。

全国との差が一番大きかったのは記述式の問題であり、記述式でほかの問題と同様に、しっかりと解くことができていた。

無解答率も全国よりも低く、書くことがしっかりと定着している。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・全体的に、全国平均を上回っている。
- ・一昨年度、大幅な上昇をみせた平均正答率であるが、昨年度より下降傾向にある。
- ・一昨年度から下降傾向にあった国語Aであるが、昨年度とほぼ横ばいではあるものの数値が少し上昇した。
- ・国語においても数学においても、B問題での平均正答率の下降が気になるため、その原因を分析し、対策をたてる必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・昨年度より、学力高位層が減少傾向にあり、学力低位層は増加傾向にある。またエンパワー層も増加傾向にある。
- ・「一人も見捨てへん教育」を念頭に、日々の授業においてきめ細かい指導や個に応じた指導など課題をやりきる力をつける等の取組みをさらに進めていきたい。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

*昨年度に引き続き、下記の4項目について取組み、その成果をして検証している。

朝の読書

- ・8:30の予鈴から10分間を読書の時間とし、取り組んでいる。生徒は予鈴で入室し、各自持参した本または学級文庫の本を読む習慣が確立している。
- ・8:35の本鈴に遅れる生徒はほとんどいなくなった。
- ・図書委員会とも連携し、学級文庫の本の選定や管理を行っている。
- ・図書室の壁に“Reading Tree”を設置し、生徒がおすすめの本を紹介するなど学年を越えた交流を行い、本への興味関心を高める取組みも推進している。

授業改善の取組み

- ・定期テスト前後に各学年の状態に応じて、チャイム着席・服装・授業準備などの点検活動を学級委員会、生活委員会と連携して取り組んでいる。授業が終わると次の授業の準備、チャイム着席、授業中は積極的に挙手をして発表する、私語はしない等、授業に取り組む姿勢を見直す機会でもあり、「授業を大切にする」気持ちを常に持ち、実行していくための取組みである。
- ・昨年度より「本時の目標」、「ポイント」のステッカー、今年度よりスクリーンの常設配置を行い、教室の環境づくりも進めている。

研究授業・研究協議の実践

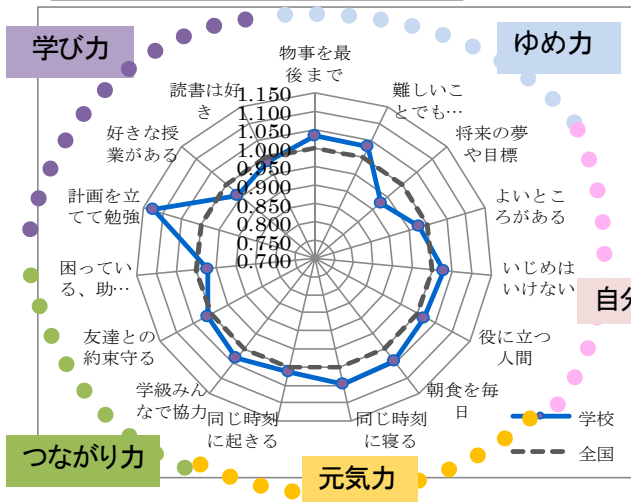
- ・年3回の研究授業（中学校ブロックも含む）時間を設定し、全教員が参観し、その後研究協議を行っている。
- ・校内の研究テーマ『主体的・対話的で深い学び』を見据えた授業実践について、研修会を通じて各教科で話し合い、年1回は積極的に授業見学することを奨励している。また秋の授業交流週間においても、お互いの授業を見学することを奨励している。
- ・今年度は中学校区の小学校において6月・11月に実施される合同研究授業に、全教員で参加し、研究協議を行い、学びを深める場とする。

学び～舎（放課後学習会）

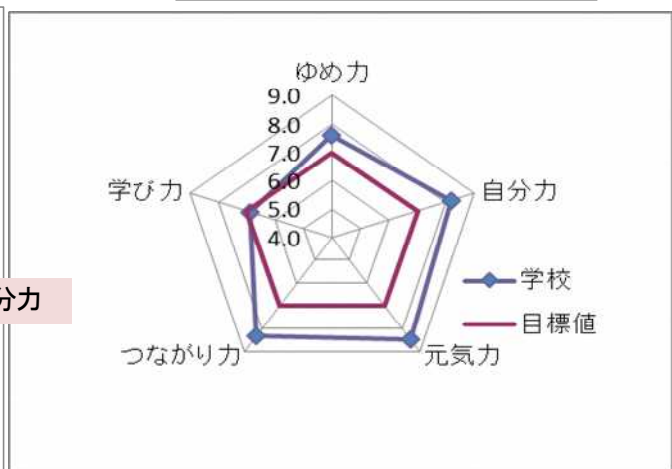
- ・放課後の自主学習の場として、毎週木曜日に開いている。生徒が自分の課題を認識し、自主的に参加する場であり、毎週参加する生徒も出てきて参加者は増加傾向である。また分からないことを安心して聞ける場としても定着してきた。学び～舎では、生徒たちは担当教員だけでなく、学習支援員からもサポートを受けている。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



分析

今年度は全国平均とほぼ横ばいの数値を示している。

学習状況調査をみると、

- ・朝食を食べている生徒が88.5%と高い数値を示した。起きる時間や寝る時間が決められているなど、基本的な生活習慣が身についている。これは保護者の協力が大きいと思われる。ここ数年、予鈴登校もきちんとしてきている。
- ・計画を立てて勉強している生徒の割合が、全国平均を大幅に上回っている。その一方で、自分によいところがあると認識する生徒の割合や将来の夢や目標をもっている生徒の割合が低く、自尊心の低下や自分の可能性についての意識が低い生徒が多いと思われる。これは一昨年度や昨年度との比較から、物事を最後までやり遂げて嬉しかった体験や経験の少なさが要因といえる。
- ・学校生活に関しては、「好きな授業はありますか」「家で学校の予習・復習をしていますか」という問いに対し、昨年度と比較し数値が下がっている。その一方で友達に会うのは楽しいですかとの問いにほとんどの生徒が肯定的な意見をもっている。自分への自信のなさから学習面への意欲が低下していると思われる。
- ・役に立つ人間になりたいと考える生徒は多い一方で「人が困っているときは、進んで助けていますか」という問いに対する割合が低い数値にあるので、家庭地域とも連携をはかりつつ改善していきたい。

取組み

つながり力

- ・昨年度の研修での学びより、生徒会活動や委員会活動、部活動など縦のつながりもしっかりと意識して取り組んでいる。
- ・ユニバーサルデザインの観点から、『本時の目標』・『ポイント』のステッカーを各教室に常設し子どもたちの学びにつなげている。また今年度より各教室にスクリーンも常設している。[学び力も含む]
- ・教師の学級集団作り・班活動・委員会活動・リーダーの育成についても取組みを進めていきたい。

自分力

- ・いじめに対する「どんな理由があってもいけない」という意識は昨年に続き、高かった。これは日々の学活の取組みや道徳の授業実践の取組みが成果を上げているものと思われる。「きまりを守る」という観点に力を入れながらさらなる取組みを進めたい。

ゆめ力

- ・行事に取り組む姿勢は高いものの、夢や目標を持っている生徒の割合が例年に比べ数値が下がっている。自分の目標へ向かう進路決定や2年生で行う「福祉体験」等を通じて、視野を広げ、体験をしていく中で、自分の将来の夢や目標をもつことへの手ごたえをつかんでほしい。

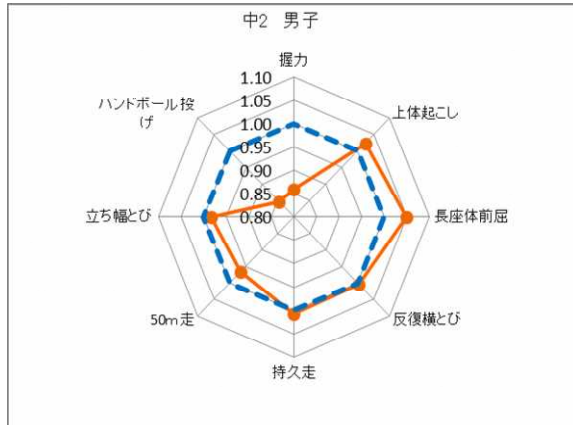
学び力

- ・平均正答率の低下に伴い、学習意欲の低下もみられることから、教師間で授業力を高めるよう意識しつつ、授業やさまざまな学びを通じて、「できる」喜びを実感するとともに学習意欲を高めてほしいと思う。

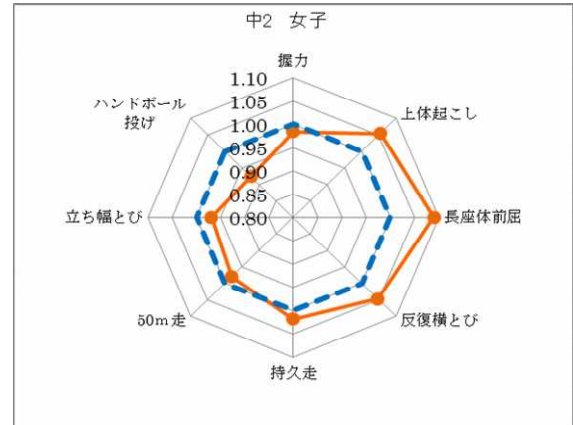
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子（中2）



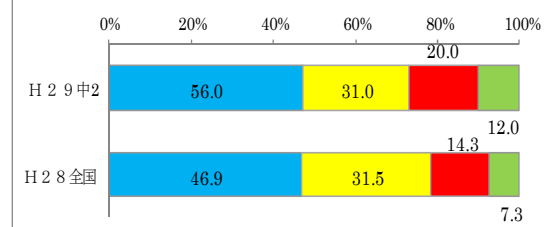
女子（中2）



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■やや嫌い ■嫌い

分析

男子

全国平均を1として比較をすると全体的に秀でている種目はないが、上体起こし、長座体前屈で全国平均より少し上回っている。しかし、握力やハンドボール投げといった手や腕を使う種目については平均よりも大幅に下回る結果になった。

女子

上体起こし、長座体前屈、反復横跳びの3種目は全国平均を上回る結果になった。男子と比べ、全体的に大きく平均を下回っている種目はないが、男子同様、ハンドボール投げが平均を下回っている。

男女ともにハンドボール投げが全国平均を下回っている。中学生になるまでに球技をあまりやっていないのか、ボールを使うことを苦手とする生徒が多いため、今回のような結果になったのではないかと考える。今後の課題として、体育の授業の中でボールを使う機会を増やし、正しい投げ方を身に付けさせていきたい。

取組み

毎回の授業で基礎体力向上のために補強運動(腕立て伏せ、腹筋、背筋、スクワット、馬跳びなど)を行うようにしている。学年ごとに回数を変え、強度を上げている。

また、ハンドボール投げの結果がよくなかったことから、授業でボールを使うことを意識的におこなっている。次年度以降も球技の時間を確保し、ハンドボール投げの記録を伸ばして全国平均を上回るようにしたい。